

《猫好き》にお伝えしたい事柄 IV

秋田支部 齋 藤 豪

『きさかた港猫を守る会』

秋田県にかほ市象潟町に、地域猫として野良猫を保護する団体が誕生した。発足して日は浅いが積極的に活動しているので、平成28年6月19日に現地に赴き取材したので報告する。

【設立までの経緯】

十年ほど前から、象潟漁港に野良猫が5～6匹棲みつくようになり、猫好きの漁師が魚を与えたりしていたが、自然繁殖で頭数が増え四十匹を超えるようになった。そこで、見かねた猫好きの地域住民が港を拠点として、保護するようになった。しかしながら、猫好きの住民ばかりではないので苦情が出るようになり、保健所からも餌やり禁止の指導がなされた。

それならばと、港猫保護で顔見知りの人々が「きさかた港猫を守る会」を立ち上げ、保健所とも話し合い地域猫保護団体としての認証を得たのである。

【設 立】

平成27年11月1日。

設立発起人は、齋藤敬一郎会長、佐々木正副会長、佐藤昌子事務局、木村貴代美獣医師、国松ひろ子会計担当の5名である。齋藤会長と佐々木副会長は、漁師である。

佐藤事務局は、潟上市在住である。無類の猫好きで猫たちの写真撮影のため週二回のペースで通い、会発足を呼びかけた。

現在会員数は、52名である。会員資格は特に無く、町外はもとより県外からも入会している。老若男女猫好きならば誰でも歓迎される。



当日の皆様

前列右から 会計・現場担当国松ひろ子さん 佐藤昌子事務局
後列右から 齋藤敬一郎会長 木村貴美代先生 里親会員夫妻

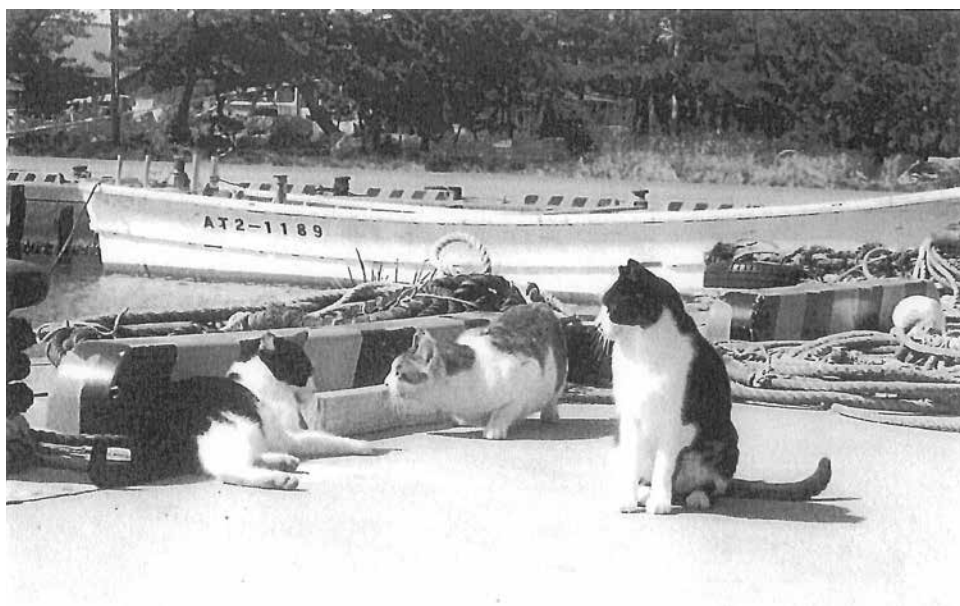
会費は¥1,000であり、寄付金は一口¥1,000をお願いしている。申し込み要領は、本会のブログで見ることが出来る。

【活動方針】

- ① 猫の避妊・去勢手術
- ② 怪我・病気の治療
- ③ 捨て猫の保護・防止・啓蒙
- ④ 象潟漁港の清掃

これらは、象潟漁港の猫たちへの活動であるが、隣の小砂川漁港にも十数匹の猫が棲みついているとのこと。幸い給餌する人がいるので、避妊・去勢手術で手助けをする予定だそうである。

手術済みの目印として、片耳の先端をカットしているので一目瞭然。ただし、1匹カットを忘れた猫がいたが、皆が認識しているので問題無し。



みなと猫（佐藤昌子撮影）

【助成金応募事業】

「にかほ市げんきづくり応援事業交付金」事業に、応募して受諾された。この事業の目的は、にかほ市の元気・活力を醸成し、地域の活性化や地域振興を図ることである。事業期間は、平成28年1月15日～3月31日までであった。

本会は、象潟漁港の清掃を2回と、雌雄合わせて12匹の猫の避妊・去勢手術を行った。

【事 業】

- ① 平成28年2月18日～3月1日
「猫の適正飼育啓発パネル～ニコニコ・ねこ・ニャンパネル展」
に参加

於 秋田県生涯学習センター



- ② 平成28年2月24日

にかほ市げんきづくり応援事業に参加 象潟漁港の清掃（軽トラック1台分の塵埃）と猫避妊手術1匹を行う

- ③ 平成28年2月27日

「市民活動フェスタ2016」に参加 各団体の活動紹介

於 秋田市アルヴェきらめき広場

- ④ 平成28年3月19日

にかほ市げんきづくり応援事業に参加 象潟漁港清掃と草刈り（軽トラック3台分の塵埃）

- ⑤ 猫小屋作製 5棟

- ⑥ 「平成28年度 動物にやさしい秋田推進事業（地域猫モデル事業）」に参加

主催 秋田県

- ⑦ 平成28年5月22日

「ねこ輪茶」に参加 手作りネコグッズのフリーマーケット

本会主催で「猫話でほっこりタイム」を行い、天国に行った猫の話、うちの猫の自慢話、困った話などを語り合った

於 秋田市遊学舎

- ⑧ 平成28年6月7日

象潟漁港清掃（地元漁師さんも参加）猫小屋の移動

以上の事業報告は、上の「きさかた港猫通信」とブログに掲載されている。



無 題

【報道】

① さきがけ新報 平成27年12月22日掲載

“にかほ市象潟 漁師ら「守る会」結成”と題して、2枚の写真とともに五段抜きで掲載された

② 朝日新聞 平成28年1月20日掲載

“港と野良ネコ 共存共栄”と題して、3枚の写真とともに四段抜きで掲載された

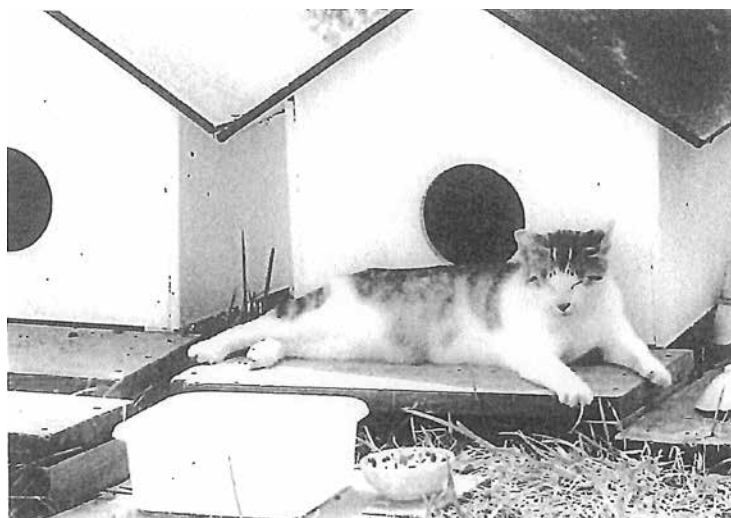
③ NHK TV 平成28年3月7日放映

2月24日に象潟漁港清掃と猫の避妊・去勢手術を取材して、3月7日のニュースこまちで放映した

④ ABSTV 平成28年2月22

日放映

2月22日ニャンニャンニャンの日放映に合わせて、取材に来た



猫小屋（佐藤昌子撮影）

【捨て猫】

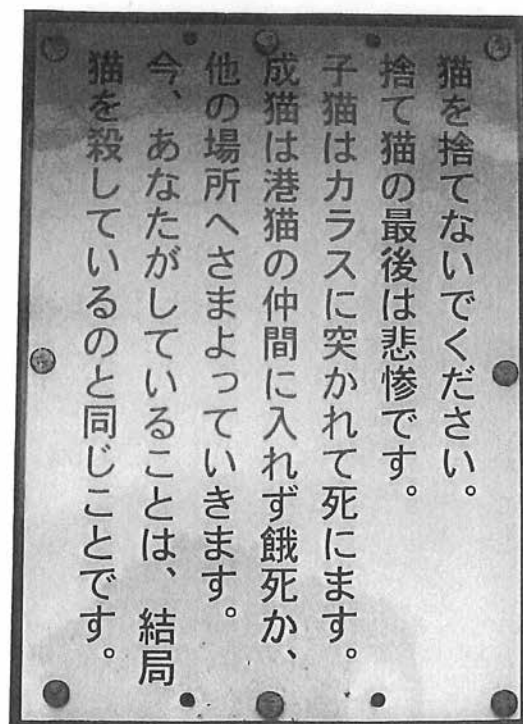
地域猫保護団体の悩みの種は、捨て猫である。

心ない人の行為が後を絶たない。本会でも、過去に成猫3匹仔猫6匹が捨てられたことがある。そのため、右の注意書きを作業小屋の板壁や木の枝に取り付けて防止を図っている。

捨てられた成猫は、自ら出て行ったか追い出されたかしてまもなく居なくなったそうである。仔猫6匹のうち1匹はカラスにやられてしまったが、残った5匹は手厚い庇護のもと順調に育ち、それぞれ里親に引きとられた。冒頭の写真の里親会員夫婦がその中の一組である。

【運営】

当会の運営は、会費、にかほ市からの助成金そして寄付金で賄われている。また、観光客や会員が持参したり送られてくるキャットフードも大きな力となっている。木村先生によると、「当初は手術代などは無料にしていたましたが、今では少しいただいています」とのことだった。



それでも運営費不足ですので、獣医師会会員皆様のご入会とご寄付を切に要望するものであります。

【終わりに】

私が本会の存在を知ったのは、秋田市の「にぎわい交流館AU」のパンフレットコーナーで、「きさかた港猫通信 vol. 5」を手にしたからである。朝日新聞を除く報道三社の報道を見逃していたとは、全く情けないことである。

それはともかく即座に、取材して秋田県獣医師会雑誌の「《猫好き》にお伝えしたい事柄」に載せなくてはと考えた。そこで前県動物管理センター所長の須田宏司さんからのアドバイスで、木村貴美代先生に取材申し込みをした。ご快諾をいただき喜んでいたら、事務局の佐藤昌子さんから「きさかた港猫通信」創刊から6号までが届いた。熱読しブログも拝見して、期待がますます膨らんだ。

当日は幸い天候にも恵まれ、象潟駅に出迎えていただいた木村先生の車で漁港に向かった。そこには、斎藤会長、佐藤事務局と国松さんが待っていてくださった。にこやかな斎藤会長との挨拶を終えて見渡すと、そこかしこに猫がいる。近寄っても逃げないし、撫でて



フレンドリー（佐藤昌子撮影）



岸壁道路にて

